



千葉労動重刊

國鐵千葉動力車勞動組合

〒280 千葉市要町2番8号(助力車会館)
電話 {(鉄電)千葉 2935・2936番
(公)千葉(22)7207番

91.10.22 No. 3480

運転士の健康と安全に関する アンケート調査 その1(健康編)

調査項目は、日本産業衛生学会が、一九七二年に、国鉄・私鉄の運転士を対象にアンケート調査を実施したものと基本的に同一項目としました。

結果は、七二年の調査と比べても、現在の乗務条件が極めて悪化していることは明白です。

日本産業衛生学会は、七二年の調査結果からも、運転労働者の労働条件は極めて苛酷な状態におかれているとして、七四年

間以内とすること、④週休は平均二日とすること等の意見書を関係官庁に勧告している。

この勧告は、労働者の外部団体である「労働科学研究所」も、「労働科学領域から勧告しうる集約点とも言えるものである。勧告から十年の歳月をさらに大きく経過したが、その勧告内容は何ら新しさを欠くものではないとしている」

(別表一)とくにECVグループは七二年当時の私鉄の運転士の回答と比べても、仕事によって日常的に重圧がかかっているとする回答が十六ポイントも上がっている。これが「私鉄並」を合言葉に進められた分割・民営化の結果である。

また、貨物グループで約五六%、旅客グループで約五〇%の者が疲れをつぎの勤務にもちこす、

泊勤務での仮眠の
充足度・体の状態
についての自覚症状

さらに泊勤務の仮眠時間について見ると、仮眠時間が不足していると回答した者が貨物グループでは何と一〇〇%、旅客グループでも九四%にのぼる。（別表三）

こうした状況の中で、現在の体の状態について

高くなっている
しかも、別表五のとおり、具合が悪くとも、貨物・旅客それぞれ約七五%、七七%の者が休みがとりにくくないと答えているのである。

以上の回答結果を見てわかるとおり、動力車乗務員の労働条件が極めて劣悪な状態の下におかれ、日々健康がむしばまれている状態にあることは一目瞭然である。

別表

別表2

事についての感じ方（%）

	何か重荷がかった 不安がある	仕事でイライラ 脳入 することが多い
D L (国鉄) [1972年]	10.5%	69.8%
E C (私鉄) [1972年]	25.4%	55.8%
D L・E L [1981年]	10.8%	69.8%
E C・D C [1981年]	8.6%	63.5%

仕事による疲れ (%)

	疲れを 感じない	だいたい家で 回復する	つぎの勤務へ よくもちこす	無記入
D L (国鉄) [1972年]	4.2%	67.8%	27.3%	0.1%
E C (私鉄) [1972年]	4.0%	76.4%	19.1%	0.6%
DL・EL [1991年]	1.7%	42.1%	56.2%	0%
EC・DC [1991年]	2.4%	48.1%	48.6%	0%

勤務の途中でとる仮眠の充足度 (%)

	仮眠時間が不測し、仮眠設備もわるい	仮眠設備はよいが、仮眠時間が不足する	仮眠時間は十分あるが仮眠設備がわるい	仮眠は十分とれている	仮眠はとる必要がない
D L(国鉄) [1972年]	56.0%	33.9%	6.5%	2.1%	0.8%
E C(私鉄) [1972年]	53.5%	28.9%	6.8%	4.1%	5.1%
D L・E L [1981年]	84.2%	15.8%	0%	0%	0%
E C・D C [1981年]	79.9%	14.4%	2.9%	0.8%	0.8%

現在のからだの状態についての自覚症状訴え率 (%)

自覚症状	DL(歳) [1972年]	EC(歳) [1972年]	DL・EL [1991年]	EC・DC [1991年]
体がだるく疲れた感じがする	70.8	72.2	75.4	78.6
腰が痛む	45.5	32.2	42.1	59.0
下痢をしたり便秘したりする	50.0	54.5	66.7	63.1
肩がこる	66.0	58.9	61.4	68.8
目が疲れやすい	73.6	71.1	80.7	83.6
最近よく眠れないことがある	50.2	45.5	59.6	48.7

具倉の腰いときの休みのとりやすさ (%)

	すぐ 休める	休みが とりにくい	どちらとも 言えない	無記入
D L (国鉄) [1972年]		65.7 %	18.2 %	1.2 %
E C (私鉄) [1972年]		30.7 %	17.9 %	0.9 %
DL・EL [1991年]		75.4 %	15.8 %	1.7 %
EC・DC [1991年]		77.4 %	13.9 %	1.9 %